

「外来がん薬物治療患者における保険薬局クリニカルパス」を運用した対応に対する患者意識調査

土屋りえ そうごう薬局 天神中央店

【背景・目的】

そうごう薬局天神中央店(以下当薬局)は主応需先病院との連携により外来がん薬物治療に関する情報を共有している。それらの情報を活用し患者ケアを標準的・効率的に実施することを目的として、『外来がん薬物治療患者における保険薬局クリニカルパス』(以下パス)を作成し、運用している。今回、パスを運用した当薬局の対応を患者がどう捉えているか意識調査を行った。

【方法】

アンケートは2017年10月～12月の間で当薬局に来局した外来がん薬物治療患者に依頼した。計24項目で構成されるアンケートを作成し無記名自記方式で行った。

【結果】

85名中51名から回答を得た。(回答率60%)

保険薬剤師による抗がん薬の説明に、満足・大体満足と96%が回答した。

副作用に関しては「毎回確認があり、予防や悪化防止への意識につながる」と51%が回答した。検査値に関しては84%の患者が検査値を薬剤師に見せており、その理由として「質問しやすいから」、「毎回記録してくれるから」とそれぞれ67%、61%が回答した。病院との連携に関しては「病院で聞きそびれた事を薬局で聞くことが出来た」、「病院薬剤師の説明で覚えられなかった事を薬局で再度教えてくれた」とそれぞれ67%、56%が回答した。

【考察】

当薬局の対応に、ほぼ全ての患者が満足している事が分かった。パスを運用した対応により、患者は副作用や検査値について毎回確認されている実感があり、それが患者自身の副作用予防意識に繋がっている事が分かった。また、患者にとって保険薬剤師が検査値について質問しやすい存在である事が分かった。多くの患者にとって当薬局が病院での説明の復習や聞きそびれた事の確認の場として認識されていることは病院と連携して情報を共有・活用し、パスを運用して対応しているためだと考える。